

平成22年国勢調査関係者会議（第3回：教育関係団体）議事概要

1 日 時 平成20年4月25日（金）15時00分～17時20分

2 場 所 総務省第2庁舎 3階第1会議室

3 出席者

教育関係団体：全国連合小学校長会、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校
連合会、全国高等学校長協会、全国都道府県教育委員会連合会

関係行政機関：文部科学省、東京都

総務省：統計局長、統計調査部長、国勢統計課長、国勢統計課企画官

4 議 題

(1) 国勢調査の結果の活用について

(2) 国勢調査の意義等について

(3) 小中高校に対する統計普及の取組について

(4) その他

5 配布資料

資料1 人口でみる日本のすがた ～国勢調査の結果から～

資料2-1 国勢調査の意義について

資料2-2 国勢調査の実施状況及び今後の取組について

資料2-3 国勢調査と新統計法について

資料2-4 国勢調査と個人情報保護法について

資料3 総務省における小中高校に対する統計普及の取組

参考1 平成22年国勢調査関係者会議について

参考2 平成22年国勢調査関係者会議の事前説明時における意見

6 議事の概要

国勢調査について、資料に基づき事務局等から説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見等は次のとおり。

統計に関しては、教育するための材料も時間も、以前に比べ増加している。しかし、統計を学ぶことと統計調査に協力することとは別問題であり、国民としての義務観念一般の育成方策を考える必要があるのではないかと。

公立学校を中心に統計普及の取組を行っているようだが、私立学校に対しても、同様の取組をお願いしたい。

社会科学的な認識能力を高めるために、統計は非常に重要である。統計は、小中学校の教科で必ず取り上げられており、高校の入学試験の問題でも数多く出題されている。統計表やグラフから何がわかるかを教えることが必要である。

地域におけるコミュニティ活動に非協力的な人が増加しており、国勢調査に対する協力の状況も、このような一般的な状況の一環と言えるのではないかと。

私見だが、調査項目「住宅の床面積」は正確に記入するのが面倒であり、このような面倒なことを行いたくないという人が多いのではないかと。調査票も、記入しやすいものにするなどの対応が必要である。

ニュースで取り上げられる統計調査の結果の作成過程など、統計の仕組みや重要性を身近な話題・問題と結び付けて教えることが重要ではないかと。また、小学校の総合学習では、新聞記事を調べて発表することがよくあるので、統計の記事が増えれば、子どもたちの統計への関心も高まるのではないかと。

「かベテレくん」や「統計を学ぼう」などの良い資料を学校現場で効果的に活用してもらうためには、この資料を活用する授業や方法などについて、具体的に明示するとよい。

文部科学省の「情報ひろば」のように、統計の資料を展示し、子どもたちに見てもらえるようにすれば、子どもたちの統計への関心も高まるのではないかと。新学習指導要領の中でも、各教科において、学んだ知識を基に分析するような能力を高めることを目標に掲げている。今後、統計データを活用して分析する能力を高めることが重要であり、その際、一つの事象を増加率と寄与度で把握するなど、多面的なものの見方を高めることが必要になるのではないかと。

個人情報保護法にかかわらず、統計法によって国勢調査の調査票を記入・提出しなければならないということを、国民に周知することが重要ではないかと。

中学校では、全国的に行われている社会科教育研究会にアプローチすれば、統計普及資料の効果的な活用方法等の相談を行うことができると思う。

親子での参加を募るなどして、魅力のある統計関係のコンクールを開催することも、統計普及の一案となるのではないかと。